

令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業 第3回 オンライン研修 実施報告書

■日時:令和5年9月1日(金)15:00~17:00

■参加人数:46名

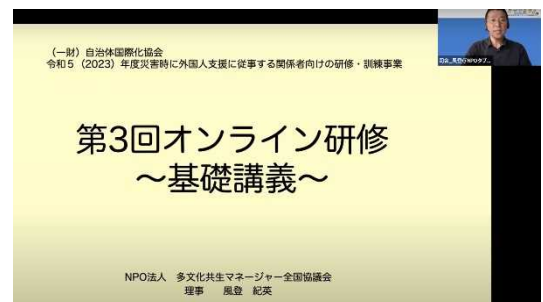
進行:特定非営利活動法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 風登紀英

■タイムテーブル

時刻	内容
14:50	開会前アナウンス
15:00	開会
15:05	災害時の外国人支援 基礎講義 NPO 法人多文化共生マネージャー全国協議会 理事 風登紀英
15:40 ~ 16:20	「水害から命を守るマイ・タイムライン」 一般財団法人河川情報センター 向井 正大氏
16:20 ~ 16:40	グループディスカッション 1.自己紹介 2.講義の感想 3.自分の地域でこれからやってみたい取り組み
16:40	全体共有
16:55	まとめ、アンケート依頼
17:00	<終了>

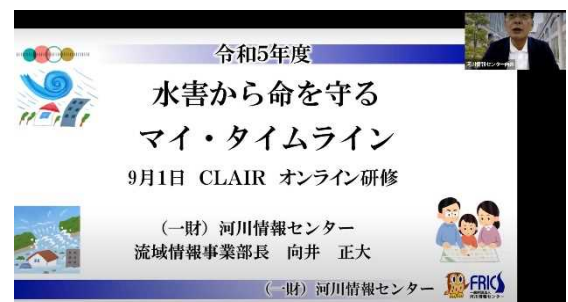
【基礎講義】

特定非営利活動法人
多文化共生マネージャー全国協議会
理事 風登紀英
概要:災害時に外国人が直面する課題や地域防災に
おける位置づけについて共有し、誰でも使える多言語
支援ツールについて紹介した。



【事例紹介】

「水害から命を守るマイ・タイムライン」
一般財団法人河川情報センター 向井 正大氏
概要:台風や大雨の時、事前の準備や行動を整理し
た個人の避難行動計画を作成することにより、家族
や生活環境にあわせて、「いつ、誰が、何をするのか」
をあらかじめ決めておくことで、落ちついて避難で
きる。在住外国人にも事前に作成してもらうことで、
自ら命を守る行動が取れるようになる。



(質疑応答)

Q マイタイムラインはその時自分が置かれている状況によって変わってくると思いますが、作成する時の基準として、何を優先し考えていったらよいか。

A 先ずは自宅を優先して作成していただき、家族が個々でも避難できるようにしておく。職場では職員の命や会社の財産を守る計画を作成する。また、旅行先等、不慣れな土地での対応も予め考えておくことが大切。

西日本豪雨の被害、岡山県倉敷市真備町で亡くなった51人のうち42人が自宅で、うち21人が1階で亡くなっている。(2階に逃げれば助かっていた。)早めに避難し、避難遅れた場合は、自宅の2階(お隣の2階)に避難してほしい。

Q 基礎講義で説明のあった全国避難所ガイドアプリは日本語だけか。

A 英語、中国語、韓国語でも対応している。

【グループディスカッション(6グループ)】

分け方:地域、ブロックを超えたグループを編成

- ・自己紹介
- ・講義の感想
- ・所属団体での取り組み紹介など

【全体共有】

1グループからの発表

マイタイムライン作成は日本人でも難しいので、外国人にどう伝えるか課題。災害時多言語支援センター設置することになっているが、実際に設置したことがない。教えてもらったツールや事例を参考に運営について考えたい。日本語教室等でマイタイムラインを伝えたい。

Q 逃げキッドについて、外国の方に名称をどう説明するのか。

A 方言と絡めている。外国の方に伝わる訳し方で良い。

2グループからの発表

マイタイムライン初めて聞いた。外国人に伝えるとき、集め方や声掛けをどうするか課題。楽しんでできれば人が集まる、キーパーソンをつくる等意見が出た。通訳ボランティアの研修等、市民向けの研修ができていないので、今後進めていきたい。

3グループからの発表

外国人に対していかに周知していくか課題。いきなりマイタイムラインは難しいので、災害についての説明を入国や転入のタイミングでできないか検討する。

4グループからの発表

逃げキッドをはじめ、外国人に対する資料が充実している。今後活用していきたい。地震の研修はしているが、洪水に特化した研修はしていない。今回の研修を参考に実施していきたい。マイタイムラインの指導は講師側として知識が必要。担当部署と連携してすすめたい。

5グループからの発表

知らないことが多かった。(支援側、ツール、多言語等)外国人はスタートラインが違う。支援側が知っておくことが大切。多言語のツールがいろいろあるが、言語ごとにどのようにチェックするか課題。マイタイムラインや多言語標記シートを実際に作る。ハザードマップの情報を外国人へ伝えるように、関係部署と連携する。県と市で連携して訓練しているが、都市部に偏る。今後検討したい。

6グループからの発表

マイタイムラインを作成するために必要な情報量が多い。教える側の技量が必要。実際にマイタイムラインを作る時間があれば良かった。そういった研修があれば参加したい。外国人にハザードマップをみてもらう機会を作る。

【まとめ】

本日は貴重な事例発表、またグループ内での意見交換などご協力に感謝。

グループディスカッションの話にもあったように、関係機関との連携が大事になってくる。水害は地震と違い、避難の準備ができる。外国人にどのように情報を伝えるか課題に挙げているグループが多かった。外国人自身が必要な情報にたどり着けるように、仕組みを作ることも大事だと感じた。この研修を参考に、各地域で取り組んでもらいたい。

【閉会】

【参加団体一覧】

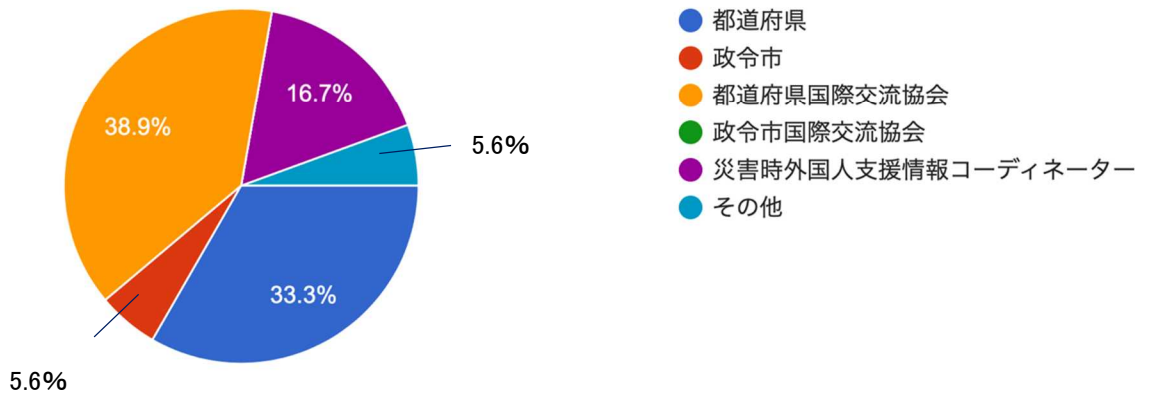
地域ブロック	都道府県	団体名	参加者数
北海道・東北	北海道	(公財) 札幌国際プラザ	1名
	青森県	(公社) 青森県観光国際交流機構	1名
	宮城県	(公財) 仙台観光国際協会	1名
	福島県	(公財) 福島県国際交流協会	1名
関東・甲信越	茨城県	つくば市	1名
	群馬県	群馬県	1名
	千葉県	千葉県	2名
	東京都	東村山市	2名
	神奈川県	(公財) 横浜市国際交流協会	2名
	新潟県	新潟市	1名
東海・北陸	富山県	(公財) とやま国際センター	1名
	石川県	石川県	1名
		(公財) 石川県国際交流協会	1名
		能美市国際交流協会	1名
	山梨県	山梨県	2名
	長野県	長野県	1名
	岐阜県	高山市	2名
近畿	大阪府	大阪府	2名
		(公財) 大阪府国際交流財団	4名
		(公財) 八尾市国際交流センター	1名
	兵庫県	(公財) 西宮市国際交流協会	1名
	和歌山県	和歌山県	1名
	広島県	広島県	1名
		広島市	1名
		(公財) 広島平和文化センター	2名
		呉市国際交流協会	1名
	山口県	(公財) 山口県国際交流協会	1名
	徳島県	(公財) 徳島県国際交流協会	1名
	高知県	高知県	1名
九州	福岡県	(公財) 福岡県国際交流センター	2名
		(公財) 北九州国際交流協会	1名
	佐賀県	(公財) 佐賀県国際交流協会	1名
		伊万里市	1名
	熊本県	熊本県国際協会	1名
	宮崎県	(公財) 宮崎県国際交流協会	1名

令和5年度 災害時に外国人支援に従事する関係者向けの研修・訓練事業 第3回 オンライン研修 実施報告書(アンケート)

1 あなたのことについて教えてください

Q1. 所属団体・部署等 (選択式)

36件の回答



Q2. 都道府県 (選択式)

ブロック	都道府県名	回答数
東北北 北海道 ブロック	新潟県	2
	計	2

ブロック	都道府県名	回答数
関東 ブロック	茨城県	2
	群馬県	2
	千葉県	2
	計	6

ブロック	都道府県名	回答数
東海・北陸 ブロック	石川県	4
	長野県	2
	計	6

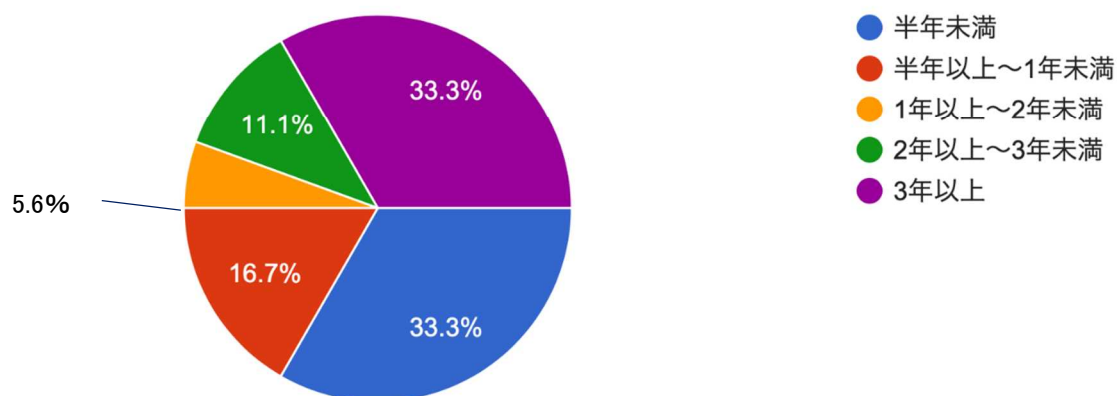
ブロック	都道府県名	回答数
近畿 ブロック	大阪府	10
	兵庫県	2
	和歌山県	2
	計	14

ブロック	都道府県名	回答数
中国・四国 ブロック	広島県	2
	山口県	2
	計	4

ブロック	都道府県名	回答数
九州 ブロック	福岡県	2
	宮崎県	2
	計	4

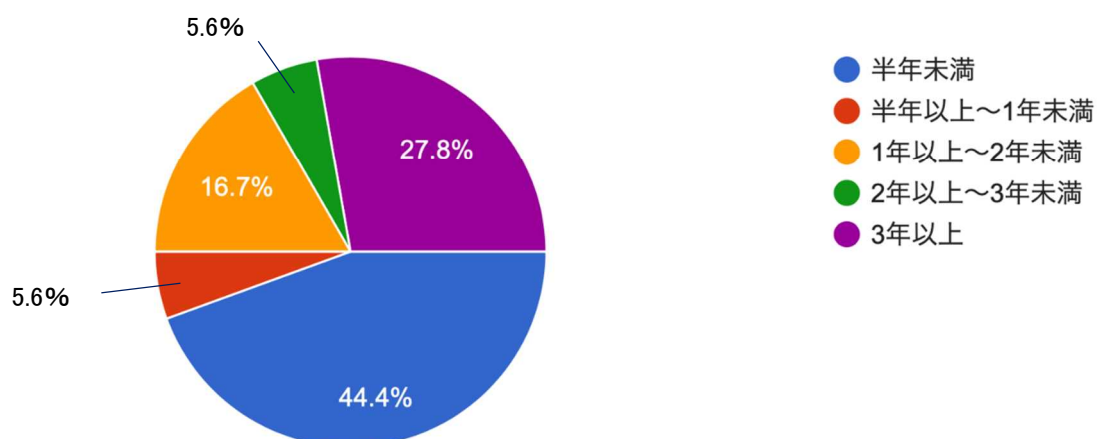
Q3. 多文化共生関連事業の経験年数（選択式）

36件の回答



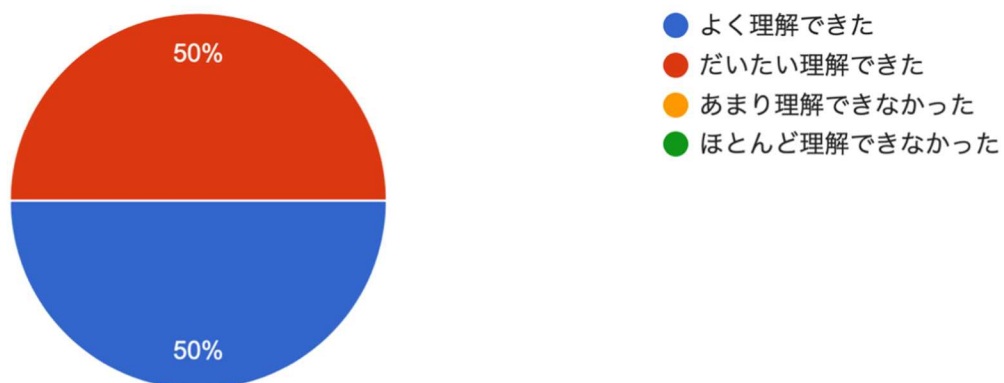
Q4. 災害時外国人支援関連事業の経験年数（選択式）

36件の回答



Q5-1. 災害時に外国人支援に関する基礎的な内容についてご理解いただけましたか？

36件の回答

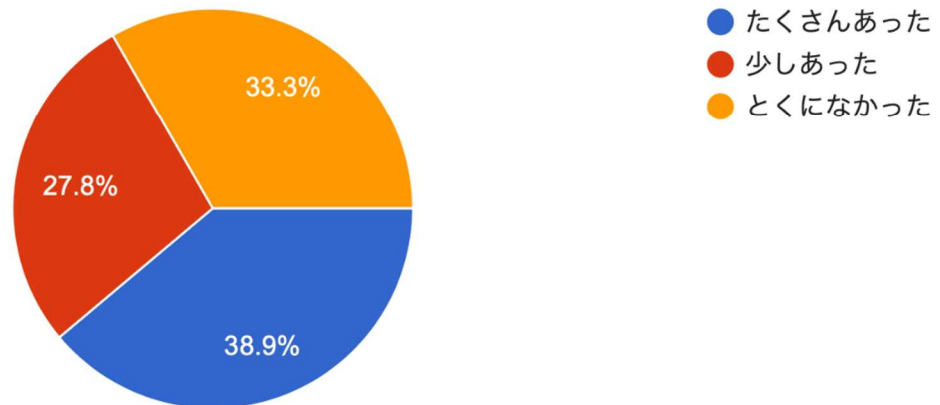


Q5-2.「Q5-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

回答:0

Q6-1. 基礎講義の中で、新たに知ったことや、気づいたことはありましたか？

36 件の回答

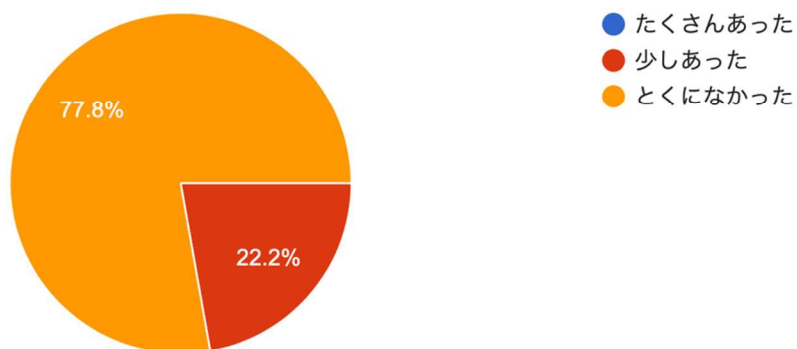


Q6-2.「Q6-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- ・ 気象庁が多言語で情報を出していること。多言語医療問診票のこと。
- ・ 多言語表示のためのツールが充実していること。
- ・ 静岡県の資料
- ・ 様々な多言語支援ツール
- ・ 災害時多言語表示シートなど様々な便利なツールの存在
- ・ 逃げキットや、ハザードマップを確認すること、マイタイムラインを作成することなど日本人の自分たちがまず知らなければ、実際に作業しなければ外国人の方々へ説明できないということに気が付きました。また、多言語対応している様々な災害へのツールがあることを新たに知ることができました。
- ・ 防災のために使うことができる多言語のツールがたくさんあること
- ・ 外国人向けの多言語ツールが多く用意されていること及び外国人へのマイタイムラインの普及をはじめていること
- ・ 多言語支援ツールや外国人だけでなく耳の不自由な方へも併用できること。また、事前の準備や確認の必要性について気づきました。
- ・ 多言語の避難所アプリ、気象庁の翻訳時の語彙統一のためのサイト

Q7-1. 基礎講義の中で、疑問に思ったことや、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

36 件の回答

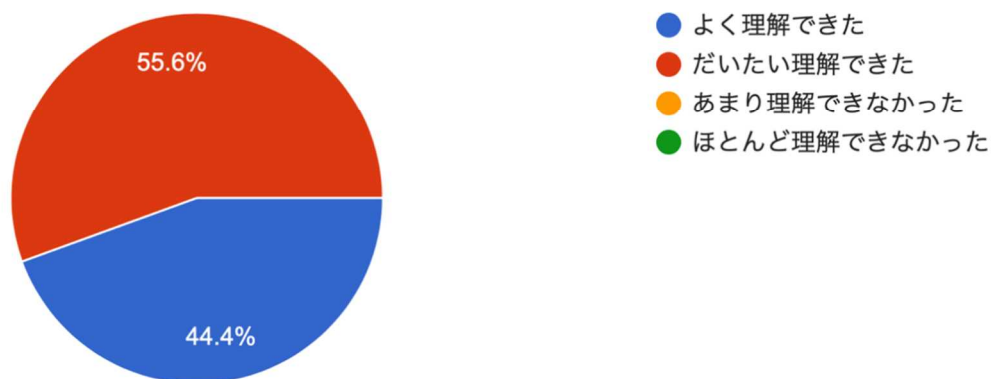


Q7-2「Q.7-1」で「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- ・ 活用事例
- ・ 外国人の方へ広く周知する方法の確立
- ・ 多言語でタイムラインを作ってもらうには、元のハザードマップなどの資料も多言語で表示する必要があると思いました。
- ・ 不法残留者数は自治体では把握は難しいとの話があったが、ざっくりとでも推定する手法などがあれば知りたい。

Q8-1. 事例紹介（マイ・タイムライン）の内容は、ご理解いただけましたか？

36 件の回答



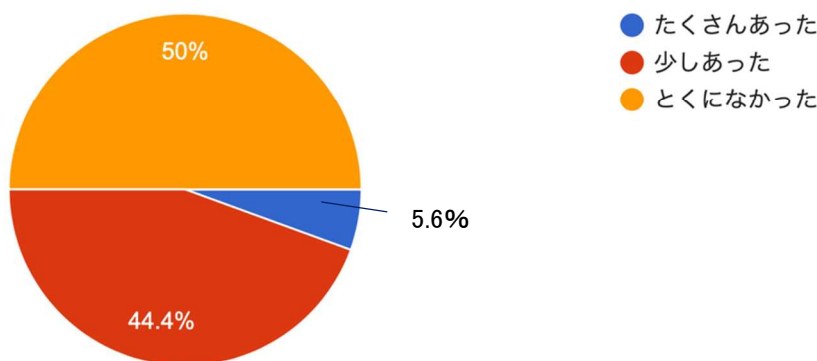
Q8-2.「Q8-1」で「あまり理解できなかった」「ほとんど理解できなかった」を選択された方は、その理由を教えてください

回答:0

Q9-1.

事例紹介（マイ・タイムライン）の中で、疑問に思...、もっと知りたいと思ったことはありましたか？

36 件の回答

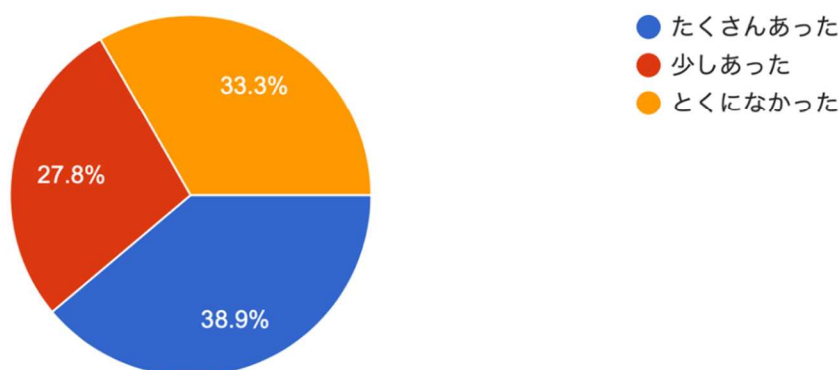


Q9-2.「Q9-1」で、「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください

- ・水害以外の災害に対応した（土砂災害など）マイタイムライン作成の考え方
- ・マイタイムラインを実際に作る研修をする際に講師派遣などの支援があるかどうか。
- ・外国人に実際にマイタイムラインをどうやって作ってもらうか。必要性を理解してもらうか。
- ・日本人も知らない人が多くいる中でどのように外国人の方へ知ってもらうか、どう説明するかが難しいと感じた。
- ・それぞれの個人で、内容が異なるので、作成したタイムラインをチェックする仕組みが難しいと感じました。
- ・どうしたら、外国人に作成させることができるのかが難しいと思った。
- ・実際に使ってみないとわからないと思いました。
- ・全国の自治体等で、外国人に対して実施した際の、外国人の理解度や満足度について
- ・マイタイムラインを外国人が作成するのは、ハードルが高いのではないかと感じた。
- ・マイタイムラインを作る研修は重要だがハードルが高いように感じるので、方法等検討したい。

Q10-1. 災害時に外国人支援に関する実践的な内容についてご理解いただけましたか？

36 件の回答

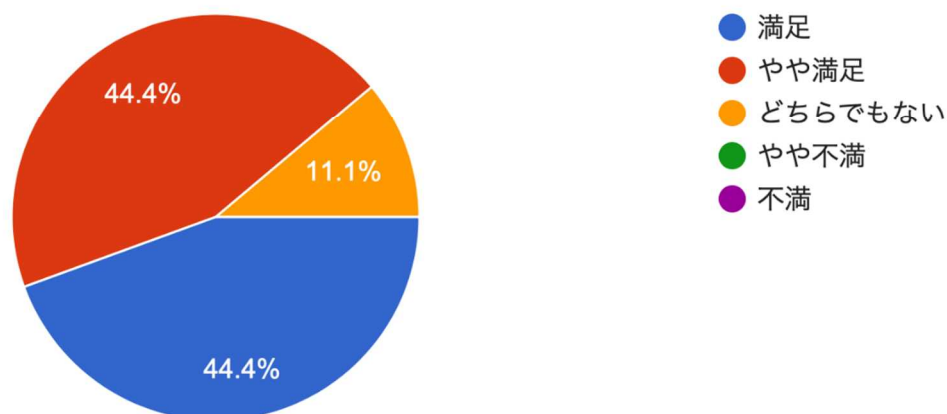


Q10-2 「Q.10-1」で「たくさんあった」、「少しあった」を選択された方は、具体的にどのようなことだったか教えてください。

- ・マイタイムライン講習会
- ・逃げキッドの使い方
- ・現存している多言語対応の様々なツールを生かすこと。
- ・言語でなく、ピクトグラムなど、誰もがわかる仕組みがとても役立つと思いました。
- ・多言語ツールの平素からの準備は必要だと思った。
- ・解りやすい言葉で伝えることを工夫する必要性を感じた。
- ・有用なツールや活用法が学べました。
- ・水害は発生が予測でき、したがって事前の備えが重要であり要配慮者にとっては特に有効であるという点
- ・伝えていくべき便利なツールがたくさんあること。他団体の方々の実践内容。
- ・マイタイムラインを作る研修は重要だがハードルが高いように感じるので、方法等検討したい。

Q11-1. オンライン研修全体を通じての満足度をご回答ください

36件の回答



Q11-2 Q11-1 の回答の理由やオンライン研修全体を通じてのご意見やご感想をお聞かせください。

- ・マイタイムラインの専門の方からお話しが伺えて良かったです。当市は、市のほとんどのエリアはハザードエリアで無いため、今まで水害についてあまり考えたことがありませんでしたが、内水による水害の可能性を考えていなかった...と反省しました。
- ・意見交換が決められた内容だけで終わってしまったので、もっと色々他団体の方に聞いてみたかった。
- ・ツールの充実をお願いしたいと思います。
- ・普段なかなか接することが少ない県の職員の方の意見や、県の状況を知ることができたので、よかったです。また、今あるマイタイムラインやそのほかのツールの活用方法や、周知方法を考える機会になりました。
- ・詳しく説明していただきありがとうございました。
- ・外国人の災害対応について新たな知識が得られた。
- ・マイタイムラインとか災害に関する理解が得られた。もっと研修を開催できるように期待します。

- ・水害は河川や海岸地域だけでなく、下水道関係でも起こりうるなど、今までに考えたこともなかったです。過去の事例を参考に、なるべく多く準備が必要だと思いました。
- ・グループに分かれて、全国の自治体・協会職員と意見交換できる場があったのが良かった。
- ・オンライン研修は、時間的にも参加しやすいが、対面開催のメリットも多いので、対面開催を期待します。ありがとうございました。
- ・マイタイムラインについては深く理解でき、とても有意義であった。事前の備えをすることで被害を抑えることができ、マイタイムラインを作成しておくことで、助かる命も多いと感じた。ただ、実際に外国人が作成するには、ハードルが高すぎるように思えた。如何に周知するか、災害を身近に感じて、危機感を持ってもらえるかが、今後の課題となる。

Q12. その他、今後の「災害に外国人支援に従事する関係者向けの研修」事業において取り上げると良いと思う内容等があればお聞かせください。

- ・各自治体の行っている、地域での防災訓練を知る機会が欲しいです。
- ・普段の防災対策としてどのような事業が行われているかの事例紹介
- ・都道府県の担当者同士の意見交換
- ・防災情報をやさしい日本語で表現する研修
- ・より分かりやすい言葉で伝える又は、動画、SNS で伝える方法の研修もいいかも。
- ・実際に被災経験のある外国人の意見を聞いてみたいと思いました。
- ・災害多言語支援センターの設置・運営について、外国人への情報発信方法について
- ・避難所担当の方が実際に経験された中で感じられた外国人支援に関しての必要な取り組みとは何かについて、伺いたいです。

以上